

# 社会福祉法人 竜樹会 龍雲寺学園バウデア学舎 園舎



施主	社会福祉法人竜樹会 理事長木村 昭仁
設計・監理	(株) 中元建築設計事務所
施工	(株) 長坂組
家具製作取付	(株) アルボカンパニー
監修	龍雲寺学園バウデア学舎 学園長木村 昭仁
解説	西野 久美子

# 龍雲寺学園バウデア学舎



龍雲寺学園は金沢市の寺町寺院群にある、幼保連携型認定子ども園です。園からしばらく歩いて坂を下ると、室生犀星の「うつしき川は流れたり」で表現される犀川が、また周辺にも大小様々な公園があり、晴れた日には晴れの日、小さな雨の日にはレインコートを着て雨の日の散歩を楽しみ、四季折々の自然に恵まれた日常の中で、それを子ども達と共に感じて過ごせることを幸せに思います。園庭には三階建てのHAGSの遊具があり、縦の空間であそべます。また、お寺の屋根から落ちる雨水でできた境内のいろいろな形の石の窪みは、子ども達のままごとの格好のあそび場になったり、バケツを雨水の落ち方に合わせて置いて水を溜めたり、その音を聴いてみたり。ちよびり傾斜のある参道は三輪車に乗ってあそぶと発見があり、一人ひとりの子どもが“やってみたい”“おもしろい”と心をくすぐられるような場になるようにと願っています。



## 0、1歳児の玄関は



子どもが自分で靴を脱ぎ履きし易い高さです。  
靴を脱いだら自分で靴箱の中に。

登園時には保護者がお子さんの姿をそばで見守られるように、大きなガラスの窓と靴箱の間を少し広く取りました。朝の登園から保護者が園を後にするまでの一連の流れは子どもの”心の整理”の時間でもあると思います。子どもが自ら気持ちよく部屋の中に入っていき姿を見て、保護者の方が安心して仕事に向かえますように。



# 登園時、 0歳児の着替えを保護者に準備してもらう



子どもの着替えや紙パンツなどを保護者に入れて頂くためのケースが入るところです。ここで保護者にセットしてもらい、子どもとの一連の朝の流れを終わらせ、保育教諭に預けて、仕事へ。

下がコット入れ、上は園にある予備のコット用のシーツを入れる場所です。すぐに出せるところにあると便利ですね。



# 1歳児のトイレは



子どもの着替え袋を入れる棚です。援助する保育教諭があまり動かなくても袋が取れる位置に取り付けました。着替えもトイレも一人ひとりの子どもの仕草や言葉などに合わせて行っているので、保育教諭もゆとりをもってその子のペースに合わせて援助ができます。

また、援助する保育教諭がトイレ全体の様子が見えるように家具の配置や高さも考えてみました。



スロップシンクは保育教諭が腰を屈めずに立ったままで洗える高さにし、横手にはタオルハンガーやフックを付けて、洗ったスリッパを干したり、掃除用具を乾かしたりするスペースも取りました。

## ごたごたせずに……



0歳児の身長計と体重計を入れる場所もサイズを合わせて作りました。

月に一度とはいえ、押入れの奥から出してくるのも大変なので、出しやすい場所にしました。身長計入れは倒れないようにチェーンも付けました。

# あそび心を埋めこむ



ここは、何でしょう……。保育教諭の提案で作った、冷蔵庫？ 食器棚？ 何にするか、考えるかは子どものあそびにお任せです。もしかしたら、ソフトベビーの“ねねちゃん”のかくれんぼの場所になるかも。大人のアソビ心と子どものファンタジーが混ざり合って、楽しい世界が広がりますように。

# コミュニケーション



龍雲寺学園にはガラスの戸や窓がたくさんあります。子ども達が通りすがりに他の部屋の中や園庭やバルコニーの様子を見て、年上の子が、年下の子が、仲良しの子が、何を楽しんでいるのかを感じ、あこがれたり、かわいいなあと思ったり、あそびのヒントを見つけたり。立っても、しゃがんでも見えるのでいろいろな発見があるように思います。もちろん、手を振ったり、アイコンタクトをしたり…。コミュニケーションも取れますよ。このように、人のことを気にする、気に掛ける気持ちを持つことは人の育ちに大切なことなのではないでしょうか。



# 靴箱は



金沢は年間を通して雨の日がよくあり、冬には雪が降るので、長靴での登園の日が多く、靴箱は年長児の長靴の高さと大きさを参考にして決めました。名札入れの付いたところは子ども用、名札入れのないところは大人用です。

1階の玄関だけでなく、2階の玄関にも靴箱があり、5歳児は2階からの登園も可能です。前には5歳児の部屋があり、登園した子は“誰が何をしてあそんでいるのか”部屋であそんでいる子は“誰が来たのか”仲間を意識し合えるところが魅力だと思っています。



# コート掛けは

未満児クラスには、名札入れを付けた通園カバン掛けとコート掛けの2台があります。通園カバンの持ち手の幅も、コートに付けて頂く紐の太さも、それぞれの家庭により様々なので、“落ちにくい・掛けやすい”を考えてフック選びました。また、それは保護者のためだけではなく、“じぶんでしたい・やってみたい”子どもの気持ちに応えられるように、あえてカバン掛けとコート掛けを分けたことにも繋がっています。キャスター付きで棚の下に入るサイズで必要な時にだけ出せますので、子ども達の動線の妨げにもなりません。



異年齢クラスはおなじ形で幅を広く、高さを少し高くしてあります。通園カバンは棚の中に置くので、ここにはコートと水筒を掛け、自分で必要に応じて掛けたり下ろしたり入れ替えたりしています。フックは未満児と同じサイズです。



年長クラスはもう少し高く、荷物の量を考えてフックも長くし、名札入れを無くしてランダムにコートやその他の荷物が掛けられるようにしました。子どもが自分で“どこに掛けるといいのかなあ”と考え、友だちの荷物のことも意識してもらいたいとの思いからです。

## コット入れを動かしてみたら・・・



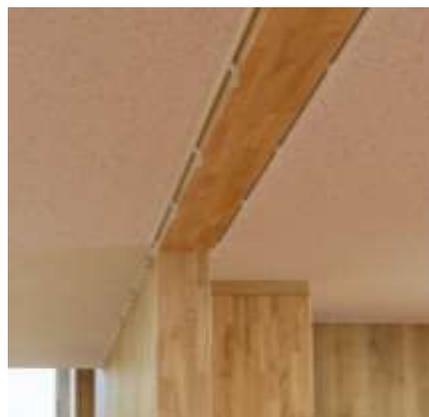
異年齢のクラスには保育教諭がデザインした可動式のコット入れが1台ずつあります。コットを入れられることはもちろん、壁がわりにしたり、ごっこあそびに使ったり……。使い方は自由自在で室内の環境構成のアイデアが広がります。可動式なので、クラス同士で交換や、貸し借りしての使用もおもしろいと思います。子どもと保育教諭のコミュニケーションツールになるかもしれませんね。



# フックとピクチャーレール



それぞれの部屋の天井や角にはフックやピクチャーレールを取り付けました。子ども達の作品を飾ったり、環境設定に合わせて天蓋を掛けることもあるからです。旧園舎での思ったところにフックが上手く付かず…。という経験から、設計図の段階から何度も位置や使い方を保育教諭で話し合い、決めました。



# 異年齢と年長児のトイレは



トイレは部屋の横に必ずあり、保育教諭がトイレに入っていた子の状況が分かる（感じられる）ようになっています。異年齢クラスは2、3、4歳児ですので2種類のトイレが設置されています。



5歳児クラスのトイレには子ども用のトイレの他に大人用のトイレもあります。大人用にはスペースを取り、ホールやバルコニーにあそびに来て、うっかりトイレに間にあわなかった小さい子が着替えに使うこともできます。

# 使いやすさを考えて



食事をするスペースには、給食のワゴンの高さに合わせた配膳台を置きました。子どもの使いやすさを考えて食器は陶磁器を使用しているので、高さが合っていると食器の乗ったお盆を移動するときに、配膳する大人も腕や腰が楽になり、動きもスムーズになりました。



制作途中で、のりやボンド、絵の具などが乾いていない作品も一時的に置くこともできる多目的棚です。



## 遅番のあそびの為に



1歳児の部屋で遅番にも使う部屋の家具です。下の3段の棚は1歳児のおもちゃと遅番のおもちゃを分けて入れ、使わない所には布カーテンを掛けています。扉の付いた家具には1歳児と遅番のおもちゃやゲーム、パズルなどを入れます。遅番に使うおもちゃはいつも同じになりがちで、替える機会を失いやすく、部屋に置くことによって改善したいと思いました。



# 子どもと過ごしてきたこと



それぞれのクラスの棚の中に物語ボックスをいれました。1冊ずつが取り出しやすいようになっています。ボックスの上にノートパソコンを入れて充電することもできます。ここには、ロックがかかります。

“物語”は一人ひとりの子どもの“入園してから修了までの学びの姿”です。

子どもが学園で“どのような過程を一つひとつ積み積み上げながら、生活とあそびを紡いできたのか”を子どもと保護者と保育教諭と学園で共有することは子どもの最善の利益になると思っています。

また、修了後に家庭に持ちかえりますので、大きくなってからちょっと開いて懐かしく思ったり、自分が園で経験した過程の続きにチャレンジしたり、助け助けられて育ったことを感じたりなどができるようにと願っています。



# きれい、わくわく、心地いい……の meterial/マテリアルルーム・資材エリア



日々の雑多に追われてとりあえずここ（棚の上？）に置いたままなかなか片付けず、積み上がってしまい残念なことになっていた経験が多々ありました。子ども達には「片付けようね」と言っているのに。

子ども達はその雑多な部分も目の中に入れて日々を過ごしていることを考えると、新園舎はどの部屋も整理された美しさを感じられる空間でありたいと思い、収納を増やし、棚の上には出来るだけ物を置かずに過ごせるように工夫しました。

また、子ども達に“きれい！ わくわく 心地いい”を感じてもらえるような“meterial/マテリアルルーム・資材エリア”もあります。meterial/マテリアルルーム・資材エリアには触れたり、手に取って選んだりするものが色々あり、自分（自分達）の考えや目的をもって来るのもよし、美しさを求めてふらりとやってくるのもよし、扉越しに覗いてみるのもよし。この場所が子ども達にとって楽しみのも場であり続けられるように願うと同時に、それは学園の大人の心持ちにあるようにも思えます。



# ホール



子ども達があそぶ縄跳びやマグネット積み木、マットや跳び箱などが収納でき、できるだけすぐに取り出してあそべるように考えました。また、楽器類を上棚に入れて出せるようにもしてあります。

キャスター付きの収納ボックスは単体で壁につけても置けますし、子ども達でホールのおそびたい場所に運ぶこともできます。一人で、友達同士で、考えながら、相談しながら、対話しながら様々な遊具を使ってあそびを楽しんでもらいたいと思います。

そして、バルコニーにもつながっているので、一段とあそびが広がっていくことがあるかもしれませんね。



# 謝辞

---

龍雲寺学園バウデア学舎の建物は木村学園長の作品です。

デザイン性のある外観

思いや願いを形にしていく過程は楽しく、たいへん。

何度も繰り返し、考えて建物が出来上がるまでには多くの人が関わり  
全員で作りあげた魅力ある建物です。

大切な子どもたちを第一に保護者への配慮、職員の作業軽減を考えて建てられました。

その建物に命を吹き込んでくださるのは先生方。

今回3日間の引越で徐々に環境が創られていく流れを見ました。

特に感じたのは、

職員のコミュニケーションの良さ

各クラスが疑問を持ったことはその場で声をあげ解決していく

主幹やリーダーが途中、何回かミーティングをして全体の流れを調整している姿。

保育教諭同志が互いに提案し対話をする姿。

質の高い保育を行う根幹を見る思いがしました。

木村学園長の「自分の園が少しでも他園の参考になるなら」のご厚意で  
今回 園舎、家具などの公開を致します。

建物、家具単体の説明は極力省き、保育の目線からの解説を付けました。

多くの事柄を学ばせて頂きました 学園長を始め先生方には深く感謝致します。

株式会社アルボカンパニー  
代表取締役社長 汐井多恵子